

令和 7 年度

自己点検・自己評価報告書

石川県理容美容専門学校

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

本校は、建学の精神「常に誠の精神を忘れず、品性を磨き、学業の進歩の推進をはかり、規律ある自治的校風を確立して、充実・発展を図る。」と校訓「誠実と規律」を重んじ、心身を鍛えることで、秩序ある社会生活と理美容関係職の未来を創造できる人材の育成を使命とする。

さらに、教育理念「逞しい心で社会に貢献できる人材の育成」を掲げ、以下の「5つの逞しい心」の育成に取り組んでいる。

- ・ 自立：自分の考えを持ち表現できる力
- ・ 連帯：集団の中で自分を活かせる力
- ・ 創造：営みの中で創意工夫ができる力
- ・ 堅忍：我慢強くこらえることができる力
- ・ 誠実：常に人のためになることができる力

また、学生が自らの目標を掲げ、努力を積み重ね、やり抜くことにより達成感を実感できる教育を旨とし、以下の4つを教育の特色としている。

1. 革新と継続：社会の変化に基づいた新しい視点の着眼と実行
2. 心情教育：人間関係を通じた自問自答
3. 個性の尊重：活躍できる表現の場の提供（自らの意見を集団の中で活かす）
4. 三位一体の教育：教員・学生・保護者の緊密な連携

本校は「生きる力」「自分で考える力」を基盤とし、知識を一方向的に教え込む傾向のあった従来の教育から、学生たちが自ら学び、自ら考える教育への転換を目指す。小学校から高校までの教育機関で見落とされがちであった部分に視野を向け、より多くの可能性を秘めた学生を社会に羽ばたかせることができると自負している。この三位一体の教育体制のもと、保護者参観日等を通じて保護者の役割と学校側の役割（やり抜く力や達成感を実感できる授業内容）の重要性を共有し、同じ方向性を目指すことの大切さを浸透させている。

学校が据える職業教育の核心とは、単なる就職にとどまらず、生涯にわたってより良い人生を送る基盤を築くことである。近年、関連企業から招聘する非常勤講師等が教育上で極めて重要な役割を担っていることから、関連業界・企業等との密接な連携に基づく教育プログラムをより一層強化していく方針である。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
		④	3	2	1
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか				

1-2	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	④	3	2	1
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

説明会の実施により「三位一体の教育体制」の周知に一定の進展は見られたが、保護者間の理解度の格差や日々の教育成果の可視化に課題が残る。また、本校の特色である職業教育を具現化するため、関連企業や非常勤講師との連携による、教育プログラムの強化が急務である。

保護者への継続的な発信と可視化：説明会の充実を図るとともに、SNS等で具体的な授業風景や学生の成長を定期発信し、保護者との共通認識を年間を通じて維持・深化させる。

基準 2 学校運営

学校運営においては、校長を中心とした指導体制のもと、教務および事務組織が一体となって業務を執行している。また、学校運営を円滑かつ機動的に推進するため、毎月「行務会」を開催して事業計画の進捗管理を行っている。行務会の構成員は、理事長、校長、事務局長、教頭、各主任としている。

運営組織の権限や意思決定プロセスについては、寄附行為、学則、本校組織図および各種規程類に明文化されており、適正かつ円滑な運営が担保されている。

人事・給与面においても、本校の就業規則および給与規程に基づき明確に定められており、教職員への周知のもと、適切に運用されている。また、年間を通じて定期的に理事会および評議員会を開催し、教務・財務状況の報告を行うとともに、重要事項の意思決定を適法に行っている。

業界や地域社会に対するコンプライアンス（法令遵守）の徹底については、財務決算や組織整備などの重要事案を理事会で審議し、評議員会へ報告する体制を構築している。さらに、本校の教育活動や財務に関する情報は、公式ホームページを通じて適正に公開している。

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
2-6	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
2-7	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
2-8	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
2-9	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1

2-10	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
2-11	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
2-12	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
2-13	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

理念研修等の実施により教職員の意識向上が図られたが、日々の学校運営や教育活動において理念を具体的な行動へ落とし込み、定着させる点にまだ課題が残る。

教員のさらなる指導力向上（学生に対する法令順守やマナー指導の徹底）が必要であるとともに、学校周辺における学生の「たむろ」や「ゴミ問題」など、近隣住民や地域社会への配慮・良好な関係維持において、より積極的かつ具体的なコンプライアンス体制作りが求められている。

教員の指導力向上とコンプライアンス意識の強化：教職員を対象とした指導力向上研修を定期開催し、学生指導法やコンプライアンス（法令順守・公衆道徳）に関する意識の底上げを図る。

地域社会との連携・環境美化活動の推進：学生に対して地域社会の一員としてのマナー教育（登下校時の規律守、近隣への配慮）を徹底するとともに、学生・教職員が一体となった学校周辺の清掃活動（クリーンキャンペーン等）を定期的実施し、地域社会との信頼関係の維持・向上に努める。

基準3 教育活動

本校は、教育理念や教育の特色、目的・目標を明確にし、その実現に向けて運営方針を策定している。定期的な教職員間のディスカッションを通じ、必要に応じて計画の軌道修正を機動的に行いながら、理念の具現化に邁進している。

教育到達レベルについては、関連法規等に準拠した年間カリキュラムの編成と、それに基づくシラバス（授業計画書）の作成により明確化を図っている。さらに、開設する3学科それぞれの特色を最大限に活かした実践的なカリキュラム構成としている。

本校は業界の現状や動向、および学生のニーズを鋭敏に捉え、実践的な職業教育の提供に努めている。その一環として、第一線で活躍する企業や業界団体の専門講師を招聘した特別授業も積極的に導入している。

成績評価においては、客観的な指標の設定と事前公表を徹底し、学科試験および技能試験の評価を適正に点数化している。授業科目の成績評価は、学年末において、各学期に行う試験、実習成果、履修状況、出席時間数等を総合的に勘案して判定する。進級・卒業の認定基準として、出席状況の厳格な把握と不十分な者への補講実施を前提とし、所定の履修時間に達しない者、あるいは実技・学科の追試験において1教科でも不合格となった者については、進級および卒業を認めない厳格な運用を行っている。

理容師・美容師国家資格の取得、および CIDESCO 国際ライセンスの合格は必須の到達目標であるが、その他にもメイク、ネイル、着付け、まつ毛エクステンション、エステティック等の各種資格取得に関し、正規授業内のみならず、学校組織全体で手厚い受験サポート体制を構築している。

各学科ともに、厚生労働大臣指定の理容師美容師養成施設として、実務経験等の要件を完全に満たした優秀な教員を確保している。また、教員の資質能力の絶えざる向上を図るため、各種講習や研修の受講を奨励・管理し、組織的な指導力の向上と先端的な教育環境の整備に努めている。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-14	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
3-19	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
3-22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
3-23	資格取得等の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
3-25	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

【課題と今後の改善策及び計画】

教員の資質向上のため、各種講習や研修の受講を奨励する体制は整っている。しかし、目まぐるしく変化する理美容業界において、現場で求められる「先端的な技術や知識」をどの程度まで日々の教育課程に取り入れるべきか、その必要性や教育現場での位置づけについて、教職員間での共通認識や具体的

な基準の策定に課題が残る。

資格試験合格のための基礎的・標準的な技術指導を最優先としつつ、学生のニーズやカリキュラムの負担を考慮しながらバランスよく精査し、研修へ反映させる仕組みが不足している。

先端的な知識・技術の必要性の精査と位置づけの明確化：理美容やビューティー教育の根幹である「資格試験の確実な合格（基礎技術の習得）」を堅持した上で、教育現場において本当に必要な「先端技術・知識」とは何かを議論し、本校における研修の明確な指針を策定する。

指導力育成とバランスの取れた教員研修の実施：単に外部の流行や先端技術を追うだけの研修ではなく、基礎指導力の底上げと、業界の動向を適切に授業に還元できる力を養うための研修プログラムを精査・構築する。

基準4 学修成果

就職支援においては、学生一人ひとりに対するきめ細かな個別指導を軸に、企業ガイダンスの開催や求人配信システムの有効活用を進め、マッチングの「質」を重視した厳格な就職指導を展開している。

理容師・美容師国家資格、およびCIDESCO国際ライセンスは、プロフェッショナルとして社会へ羽ばたくための必須要件であり、その他の関連資格（メイク、ネイル等）は、個人の付加価値を高め、就職活動を有利に進めるための重要な武器となる。本校では受験者全員の合格を至上命題とし、徹底した受験指導を行っている。

退学率の低減に向けては、クラス担任を中心に各学科が組織を挙げて学生一人ひとりに寄り添い、丁寧な生活・学習指導を行っている。また、保護者との緊密な連携を目的として「保護者参観日」を設置し、家庭との情報共有を密にしている。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
4-28	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
4-29	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
4-30	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

【課題と今後の改善策及び計画】

カウンセリング等の活用で学生の状況把握は進んだが、人間関係の悩みやキャリア意識の低下による中途退学を未然に防ぐ「組織的な早期介入の仕組み」がまだ不十分である。また、資格取得率をさらに引き上げるためのきめ細かな受験対策の強化に加え、卒業生の社会的な活躍や就職先からの評価を体系的に把握し、日々の教育改善や在校生の意欲向上へ生かすための体制整備が課題となっている。

初期対応の仕組み化とキャリア意識の醸成による退学低減：学生の学習・メンタル面の変化を早期に察知する共通の確認体制を構築する。早い段階から業界の魅力を伝える機会を増やし、目標意識を持たせることで学び抜く力を支える。

資格合格への徹底サポートと卒業生評価の教育還元：全資格の受験者全員合格を目指し、個別の習熟度に合わせた補修体制を強化する。さらに、卒業生の就職先での活躍を把握する調査（Lステップ、キャリアマップの活用）を行い、教育活動のブラッシュアップに活用する。

基準5 学生支援

就職支援においては、個別面談の徹底、就職セミナーの実施、学内企業ガイダンス等の開催に加え、第一線で活躍する本校OB・OGを招聘した講演会を設け、社会人としての心構えを醸成する機会を提供している。

経済的支援においては、本校独自の「授業料等特別免除制度（家族割制度、学び直し応援制度、ステップアップ制度）」や、各種学費サポートシステム（全保連、北國銀行、オリコ等との提携）、さらにはブレカレッジ（事前授業）参加回数に応じた学費免除特典などを整備している。また、国の「高等教育の修学支援制度（給付型奨学金・授業料減免）」の対象校として、適正な手続きと支援を行っている。

健康管理面では、毎年4月に石川県成人病予防センターの協力を得て全学生を対象とした健康診断を実施している。また、心の健康管理（メンタルヘルスケア）として臨床心理士によるカウンセリングを月2回実施し、担任と適切な情報共有を行いながらフォローにあたっている。

課外活動支援としては、国際的な視野を養うため、ヨーロッパ、バリ、韓国への海外研修旅行制度を設け、学生への積極的な案内と参加勧誘を行っている。

通学・生活環境の支援については、遠方からの学生を対象とした「一人暮らし家賃補助」や「新幹線通学補助」の制度を完備しているほか、提携の学生寮や優良アパートを円滑に紹介するシステムを整えている。

本校の教育の柱である「三位一体の教育」を実践するため、保護者との定期的な連絡や面談、参観日の開催を適切に行い、強固な協力体制を敷いている。さらに、万一国家試験に不合格となった卒業生に対しても、学校独自の再受験サポート制度を設けて継続的な指導を行っている。卒後教育の場としては、「通信修得者課程」や「レディースシェービングスクール」を開設し、社会人の学び直しのニーズにも広く対応している。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1

5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
5-39	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
5-40	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
5-41	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	④	3	2	1
5-43	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

就職ツール（キャリアマップ）の導入により、教員の業務負担が軽減されるとともに、停滞学生の早期フォローが可能となった。しかしその一方で、近年はサロン、教員、学生の三者間における関係性が希薄化している点が新たな課題となっている。そのため、システムだけに頼るのではなく、個々の適性に応じた最適な個別指導（ミスマッチ防止）へとさらに還元していく運用面の工夫が必要である。また、企業ガイダンスをより実践的な就職決定に結びつけるためのサロン側との継続的な連携強化に加え、メンタル・生活面の相談体制のさらなる充実が求められている。

実践的就職指導の定着と企業連携の深化：個別面談を徹底し、学生とサロンの的確なマッチングを図る。ガイダンスを起点とした個別サロン見学や実務実習への移行をスムーズにする連携体制を確立し、希薄化した関係性の再構築と、実践的な就職指導の定着を目指す。

基準 6 教育環境

校舎全体の清潔感と衛生環境は、学生による日々の校内清掃および教職員の巡回管理によって高い水準で維持されている。

実習環境に関しては、サロン現場での即戦力を養うため、1年次・2年次を通じて理容・美容・エステティック等の各サロンにおける計 60 時間の「実務実習」を必修カリキュラムとして体系的に組み込んでいる。

防災対策については、法令に基づく消防用設備等の定期点検と整備を確実に遂行している。また、大規模災害の発生を想定し、教職員と学生が一体となった避難訓練を定期的 to 実施し、防災意識の高揚と危急時の安全確保体制の構築に努めている。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3
--	------	----------------

		やや不適切…2	不適切…1
6-44	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1	
6-45	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1	
6-46	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	

【課題と今後の改善策及び計画】

震災後の修繕は進んだものの、増改築を経た校舎の構造的な制約もあり、最新のビューティー教育に対応した設備や整備が不十分な点が課題である

計画的な施設改修と教育設備の近代化推進：中長期的な視点から教室や実習設備の更新計画を策定し、最新の業界動向に即した実践的な実習環境の整備を段階的に進める。

基準7 学生の受入れ募集

学生募集活動の基礎として、高等学校の進路指導部への定期訪問や、進学情報業者を通じて収集した最新の進路動向・マーケット情報の学内共有を密に行っている。

広報活動の中核として、年間24回の「オープンキャンパス」を開催し、ダイレクトメール等を活用して対象者へ効果的に告知を行っている。

オープンキャンパスでは、本校の教育方針の説明、体験授業、施設見学などを通じてミスマッチの防止に努めている。また、学校案内パンフレット、募集要項、公式ホームページ等において、資格取得実績、就職実績、および学生納付金の情報を適正かつ正確に開示している。なお、本校の学生納付金の設定は、県内の競合他校の状況や提供する教育内容の価値と比較し、極めて妥当な水準を維持している。

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
7-47	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか	④	3	2	1
7-48	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
7-49	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④	3	2	1
7-50	学生納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

SNS 発信等の強化により本校の認知度は向上したものの、広報活動の成果を実際のオープンキャンパスの参加や出願へと確実に結びつける「募集活動の質的向上」に課題が残る。また、競合校がある中で安定的な学生確保を目指すためには、資格や就職実績の正確な情報提供に加え、高等学校の進路指導部

との連携をさらに深め、本校の教育理念や独自の特色を直接浸透させていく必要がある。さらに、日常の授業内容や行事を充実し、それらを本校の魅力として入学へと結びつけるための仕組みづくりも不可欠である。

志望度を高める広報・オープンキャンパスの展開： SNS 等の発信内容を精査し、年間 24 回のオープンキャンパスへの来校、さらには実際の出願へと繋がるよう、体験内容の魅力化や個別相談の質的向上を図る。

高等学校進路指導部とのリレーション強化： 高校への訪問活動を定例化し、教諭陣に対して本校の就職・資格実績や教育方針を的確に伝えることで、信頼関係に基づく確実な学生紹介・受入れの体制を構築する。

教育活動の魅力化と入学への接続： 普段の授業内容や学校行事をさらに充実させ、在校生の満足度を高めるとともに、その活気ある教育の成果を効果的に発信することで、確実な入学へと結びつける。

基準 8 財務

中長期的な財務基盤の安定性の維持を見据え、「国の教育政策」「法改正」「18 歳人口の推移」などのマクロ環境の予測を常に注視し、今後の志願動向を的確に見極める必要がある。これを踏まえ、安定的な学生確保に向けた中長期的な募集計画と組織的な広報活動を戦略的に推進している。

予算および収支計画については、本校の運営方針を具現化するための予算編成を行い、理事会、評議員会の審議・承認を経て適正に執行している。期中の状況変化に応じては必要かつ適切な補正予算を編成している。

予算の執行状況に関しては、外部の専門会計事務所による定期的かつ厳格な精査を受けており、有効性と妥当性が担保されている。また、私立学校法に基づき、外部監事 2 名による会計監査・業務監査が適正かつ厳格に実施されており、監査報告書の承認を得ている。

財務情報については、社会に対する説明責任を果たすため、公式ホームページを通じて適正に公開している。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
8-51	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
8-52	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
8-53	会計報告に対する監査が行われているか	④	3	2	1
8-54	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

教職員の経費削減に対する意識は高まったが、持続可能な学校運営のためには、少子化の進行や法改

正などの予測困難な外部環境リスクを想定し、中長期的な財務基盤の安定性をより確固たるものにするための戦略的な予算執行・財政管理が課題となっている。

中長期の環境変化に対応する予算管理の徹底：入学者数の推移や社会情勢を見据えた中長期的な収支計画の検証を定期的に行い、透明性が高く変化に強い堅健な財務運営を継続する。

基準 9 法令等の遵守

本校は、学校教育法、専修学校設置基準等の関連法令、および理容師美容師養成施設指定規則等の関係法令に厳格に準拠し、学校法人として適正かつ適法な管理運営を行っている。

個人情報保護については、「個人情報保護方針」の策定にとどまらず、教職員会議等を通じて徹底的な意識啓発と管理の注意喚起を行っている。特に学内無線 LAN 環境などの ICT インフラにおけるセキュリティ対策を高度化し、個人データのアクセス制限・暗号化等を徹底することで、情報漏えいのリスク排除に全力を挙げている。

自己点検・自己評価活動については、毎年度 6 月を原則的な実施時期として定め、全学的な自己評価体制を敷いている。評価の結果抽出された改善課題や問題点については、優先度の高い事案から組織的に業務改善に取り組んでいる。また、自己評価結果は速やかに公式ホームページ上に開示し、公表している。

	評価項目	適切… 4	ほぼ適切… 3	やや不適切… 2	不適切… 1
9-55	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
9-56	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
9-57	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
9-58	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

【課題と今後の改善策及び計画】

研修の実施等により法令遵守の意識は高まったが、環境の変化に伴う新たな情報漏洩リスクへの対応や、実務における個人情報保護の形骸化防止が継続的な課題である。また、毎年 6 月に実施する自己点検・自己評価の結果を、学校運営や教育環境の具体的な改善へと確実に結びつけ、より実効的なものにしていく必要がある。

自己評価を起点とした学校運営の継続的改善：自己点検・自己評価で明確になった課題に対し、優先順位をつけて迅速に改善策を実行する。結果の外部公開とともに学内での進捗管理を徹底し、社会的な信頼に応える適正な学校運営を継続する。

基準 10 社会貢献・地域貢献

本校は高度な教育資源や施設を活用した具体的な社会貢献活動として、他校への専門教職員の派遣や、他校を卒業した理容師・美容師国家試験受験者の再受験指導の受け入れなどを積極的に実施している。さらに、地域連携および次世代への職業意識啓発として、専修学校各種学校連合会が主催する「夏休み職業体験学びフェスタ」（中学生・高校生対象）への体験講座の提供を毎年継続して行っている。

	評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
10-59	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
10-60	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
10-61	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

【課題と今後の改善策及び計画】

学生のさらなる技術向上と学習サポートの充実と地域連携を目指し、特別講座および補習授業の開設を計画している。本運用の円滑な導入に向けては、教職員の適切なワークライフバランスと安定した指導体制を両立させるため、外部専門家の知見を交えながら、法的・実務的な課題の検証と環境整備を進めていく必要がある。

教育資源を活用した学習サポート体制の整備：教育資源および施設・設備の有効活用をさらに一歩進め、学生の自主的な学びや習熟度に応じた手厚いフォローアップを行うための、特別講座・補習授業の開設に向けて具体的な準備を開始する。

魅力ある指導プログラムの企画：ニーズや課題に応じた知識・技術のプログラムを企画・開発し、本校ならではのきめ細やかな指導を通じて、確実な資格取得と就職実績の維持・向上へ繋げていく。

【学校評価・重点目標の設定】

重点目標① 学校が取り組む重点目標

少子化を見据えた効果的な学生募集の展開と「選ばれる学校づくり」

学校の計画

- 高校生の潜在ニーズ分析に基づく、関心喚起から出願に至る導線の最適化
- 高校生、保護者、高校の教員に対し、早期から（学校生活、資格取得・就職支援に関する）安心感を高めていく取り組みの推進

取り組み状況（学校の説明内容）

1. 高校生一人ひとりに寄り添った丁寧なアプローチ

- ・ 現代の高校生の心理に合わせた見直し：昨年度設定した「ターゲット像」をさらに深掘りし、「経済的不安」や「将来のキャリア持続性」といった高校生が抱くリアルな懸念や課題を分析し、広報戦略に的確に反映する。
- ・ 関心を「入学」へ繋げる動線の確立：各種 SNS から公式 LINE での個別相談、オープンキャンパス、そして最終的な出願に至るまで、高校生が迷うことなくスムーズに行動できるよう、導線を最適化を図る。

2. スマートフォンを主軸とした「視認性・訴求力」の高い情報発信

- ・ 短時間で魅力を伝えるショート動画の活用：高校生が日常的に視聴する Instagram や TikTok 等の特性に合わせ、冒頭の数秒で関心を惹きつけるコンテンツ（技術習得のビフォーアフター、1 分間学科紹介等）を拡充する。
- ・ 在校生の「リアルな体験談」による共感と信頼の獲得：等身大の在校生が「本校を選んだ理由」や「自身の成長」を主体的に語る動画・インタビューを重視し、高校生の共感を呼ぶ情報を発信する。

3. 高校生、保護者、高校の教員に向けた業界説明と継続的なアプローチ

- ・ 高校生、保護者への確実な情報提供：学費サポート制度、資格試験合格率、就職実績等を分かりやすく解説した特設ページや配付冊子を充実させ、将来への不安を解消する。
- ・ オープンキャンパスにおける「意欲醸成」と「リピート参加」の促進：1 回の参加で出願を決意できる充実した個別相談を実施する一方で、複数回参加することでステップアップした技術体験ができる「発展型プログラム」を企画。教職員や在校生との絆を深め、志望度を高める。

これらの取り組みを通じて、より戦略的かつ効果的な学生募集を展開し、入学希望者の確実な獲得と入学者数の増加を目指す。

重点目標② 学校が取り組む重点目標
教職員の資質向上

学校の計画

- ① 指導者としての自覚と教員資質、知識・技術力向上に努める
- ② 報連相の徹底を強化する
- ③ 清掃点検の管理責任を徹底する

取組状況（学校の説明内容）

① 教員としての資質とは：

学生に対する教育的愛情を注ぎ、使命感と専門的知識を持つことを重視し、常に学び続ける姿勢とアップデート力を磨き、柔軟に授業や指導に取り組む。

立場を重んじ、指導に温度差が生じないように出来る人は後輩育成と昇華に努め、出来ない人は先輩から学び、日々研鑽に努める。

新人教育の構築を図る（半年間）：

1ヶ月…教員としての資質教育。

2～3ヶ月…挨拶・立振舞い・言動・表現など他教員のホームルームや授業の聴講。

4～5ヶ月…シラバスに基づく授業進行を含む学生対応を主任から直接指導。

6ヶ月…教頭、主任に対し模擬授業を実施。

学生満足度の向上、退学率の低下：

学生の変化に気付き、素早い対応で学生間のトラブル回避や、心の弱い学生をカウンセリングを通してメンタル軽減を助長する。

早期に問題点を見つけ出し改善の方向に導く。

将来像を見据えた目標と計画を持たせて退学者の減少に繋げる。

コンプライアンス違反の学生を事前に留めるよう、問いかけの仕方や言動を伴う伝え方の差異をなくす指導力を強化する。

② 教職員間の報連相の徹底：

定期ミーティングで共有を行ってはいるが、学生情報に関する教務と事務の連携など、まだまだ報連相の徹底がなされていないのが現状であるため、各々が自覚し計画性を持って更なる強化に努める必要がある。

③ 管理責任の積極性と重要性：

教員は学生の鏡となり、自ら見本を示して学生にも日々当たり前の行動になるまで清掃活動やエコ対策の重要性を伝える。

管理責任者としての任責を自覚し点検等を積極的に行う。

重点目標③ 学校が取り組む重点目標

学生の資質向上

学校の計画

社会性を身につけ、現場で必要とされる職業人としての意識を定着させる

取組状況(学校の説明内容)

教員と学生の共通認識の確立と基本姿勢の育成

本校では、技術の習得にとどまらず、現場で即戦力として信頼される職業人となるために、教員と学生が「目指すべきプロ像」への共通認識を強固に持ち、日々の学修に取り組んでいます。

今年度は、「規律(コンプライアンス)」を最重要事項に据え、教員・学生間でルール違反を容認しない共通認識のもと、善悪の判断、考える力を身に付け自律的な姿勢を培います。

規律(コンプライアンス)の徹底

学則や社会のルールを遵守することは、職業人としての「信用」の原点です。ルールを軽視する姿勢は現場での重大な信用失墜に直結することを全学生が強く自覚し、グループワークを通じて意見交換を行いながら問題解決能力を育み、社会で通用する高い倫理観と主体性を養います。

令和7年度 石川県理容美容専門学校 学校関係者評価報告書

開催日時：2026年（令和8年）6月29日（月）10時00分～

会 場：石川県理容美容専門学校 会議室

出席者：

（学校関係者評価委員）

長田 實、彦田 恵子、本田 昌義、釣川 美智代、津田 宏、北本 福美

（自己評価委員）

日爪 恒夫、棚田 祐子、叶井 寿、小村 巳希子、藤中 瑞恵、川浦 真理

実施方法：各評価委員に本年度の「自己点検・自己評価報告書」を精読いただき、各種重点目標の取り組み状況および今後の学校改善に向けた施策について意見を聴取・協議した。

評価項目毎の学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像等（自己評価：すべて④）

- 評価と意見：建学の精神および「逞しい心」を掲げた教育理念は、理美容業界を牽引する人材育成の明確な指針として高く評価できる。保護者説明会の実施により「三位一体の教育体制」の周知に一定の進展が見られた点は好ましい。
- 今後の期待・改善への提言：保護者間における理解度の格差や教育成果の可視化という課題に対し、SNS等を活用した日々の授業風景や学生の成長の定期発信を継続し、年間を通じて共通認識を維持・深化させることが望まれる。また、非常勤講師や関連企業との連携強化による職業教育プログラムのさらなる具体化を期待する。

基準2 学校運営（自己評価：2-11のみ③、他はすべて④）

- 評価と意見：毎月の「行務会」による進捗管理や意思決定プロセスの明文化、予算・執行における適正な運用体制が整備されており、健全な学校運営がなされている。
- 今後の期待・改善への提言：学校周辺における学生の「たむろ」や「ゴミ問題」など、近隣住民への配慮や地域社会との関係維持における公衆道徳・コンプライアンス面が課題として挙げられている。これに対し、学生・教職員が一体となった清掃活動（クリーンキャンペーン）の定期実施や、登下校時の規律遵守といったマナー教育の徹底を通じて、地域社会とのさらなる信頼関係の向上に努めてほしい。また、保護者側からも「何かあればすぐに通報される時代である」ことをアナウンス（抑止力）として伝えていくべきとの有益な意見が出されており、保護者をも巻き込んだ指導体制の構築が求められる。

基準3 教育活動（自己評価：3-26のみ③、他はすべて④）

- 評価と意見：3学科の特色を活かした年間カリキュラムとシラバスが作成され、成

績評価・進級・卒業認定において厳格かつ適正な運用が徹底されている点は、教育の質を担保する上で評価できる。

- 今後の期待・改善への提言： 目まぐるしく変化する業界において「先端的な技術や知識」を日々の教育課程へどう取り入れるかという課題に対し、養成施設としての根幹である「基礎技術の習得」を最優先に堅持しつつ、バランスの取れた教員研修の明確な指針を策定していく方針を支持する。外部の流行を追うだけでなく、動向を適切に授業に還元できる指導力を養ってほしい。

基準 4 学修成果（自己評価：4-29、4-30、4-31 が③、他は④）

- 評価と意見： 個別指導を軸とした手厚い就職支援や、各種資格の全員合格を目指した受験指導が行われている。
- 今後の期待・改善への提言： 昨年度の通信課程等において勤務先（サロン）の退職に伴う中途退学者が多く見られた現状や、昼間課程における心理面の課題による退学を未然に防ぐため、学習・メンタル面の変化を早期に察知する共通の確認体制（組織的な早期介入）の構築が喫緊の課題である。早い段階から業界の魅力を伝える機会を増やし、目標意識を持たせることで「学び抜く力」を身につけてほしい。また、導入された「キャリアマップ」や「L ステップ」を最大限に活用し、卒業生の活躍や就職先からの評価を体系的に把握して日々の教育改善へ還元していくことを期待する。

基準 5 学生支援（自己評価：すべて④）

- 評価と意見： 独自の各種学費免除制度、新幹線通学・家賃補助、臨床心理士による月2回のカウンセリング体制、不合格者への再受験サポートなど、包括的かつ手厚い支援体制が整備されている点は非常に素晴らしい。臨床心理士が1年生全員と個別面談を行い、入学時の原点を言語化・再確認させる取り組みは、学生の意識維持に効果的である。
- 今後の期待・改善への提言： 就職ツールの導入により教員の事務負担が軽減された一方、サロン・教員・学生の三者関係が希薄化している点が新たな課題として指摘されている。システムに依存するだけでなく、個々の適性に応じた個別面談を徹底し、実務実習への移行をスムーズにする連携体制を再構築して、ミスマッチのない実践的な就職指導を定着させてほしい。なお、今年度「レディースシェービングスクール」が最低開催人数に達せず見送り方向となった点についても、ダブルライセンスコースの学生等のニーズを精査し、今後の卒後教育・スキルアップの場としてのあり方を継続して検討されたい。

基準 6 教育環境（自己評価：6-44 のみ③、他は④）

- 評価と意見： 学生による日々の清掃と教職員の巡回管理により、高い衛生水準が維持されている。また、計 60 時間の実務実習が必修化され、定期的な防災訓練も確実に実施されている。
- 今後の期待・改善への提言： 能登半島地震後の修繕は進んだものの、増改築を経た構造的制約により、最新のビューティー教育に対応した設備・整備が不十分な点が課題となっている。中長期的な視点から計画的な施設改修と教育設備の近代化を段階的に進めていくことを望む。

基準 7 学生の受入れ募集（自己評価：すべて④）

- 評価と意見： 少子化が進み募集に苦労する中、年間 24 回のオープンキャンパスの実施や的確な高校訪問により、現状維持的な学生数を確保できている点は大変高く評価できる。資格取得や就職実績、妥当な学費設定に関する正確な情報開示も信頼性を高めている。
- 今後の期待・改善への提言： SNS 発信の強化による認知度向上を、実際のオープンキャンパスの参加や出願へと確実に結びつける「募集活動の質的向上」が求められる。

基準 8 財務（自己評価：すべて④）

- 評価と意見： 18 歳人口の推移等のマクロ環境を注視した募集計画が立てられており、外部の専門会計事務所による精査や、私立学校法に基づく外部監事 2 名による厳格な監査体制のもと、透明性が高く堅健な財務運営が行われている。財務情報がホームページで適正に公開されている点も健全である。
- 今後の期待・改善への提言： 教職員の経費削減意識は高まっているが、予測困難な外部環境リスクを想定し、中長期的な収支計画の検証を定期的に行いながら、変化に強い持続可能な学校運営を継続されたい。

基準 9 法令等の遵守（自己評価：すべて④）

- 評価と意見： 関連法令や養成施設指定規則等に厳格に準拠した適正な管理運営が行われている。ICT インフラにおけるセキュリティ対策（アクセス制限・暗号化）の高度化による情報漏えいリスク排除の取り組みや、弁護士・社労士等との密な連携によるハラスメント・指導内容 of チェック体制も評価できる。
- 今後の期待・改善への提言： 毎年 6 月に実施している自己点検・自己評価の結果を、単なる形骸化に終わらせず、明確になった課題に対して優先順位をつけて迅速に改善策を実行し、より実効的な学校運営の継続的改善に結びつけていくことを期待する。

基準 10 社会貢献・地域貢献（自己評価：10-60 は④、10-59 は③、10-61 は②）

- 評価と意見： 他校卒業生の国家試験再受験指導の受け入れ、専各連主催の「夏休み職業体験学びフェスタ」への継続的な協力など、専門性を活かした活動がなされている。一方、地域に対する公開講座の受託等の実績（10-61）が「2」と低い点が本基準の課題となっている。
- 今後の期待・改善への提言・議論： 地域連携および学生のさらなる技術向上・学習サポートの充実に向け、特別講座や補習授業の開設を計画している点を支持する。本運用の円滑な導入に向けては、教職員の適切なワークライフバランスと安定した指導体制を両立させるため、外部専門家の知見を交えながら、法的・実務的な課題の検証と環境整備を進めていくことが望まれる。
 - 教育資源を活用した学習サポート体制の整備： 教育資源および施設・設備の有効活用をさらに一步進め、学生の自主的な学びや習熟度に応じた手厚いフォローアップを行うための、特別講座・補習授業の開設に向けて具体的な準備を進められたい。
 - 魅力ある指導プログラムの企画： ニーズや課題に応じた知識・技術のプログラムを企画・開発し、本校ならではのきめ細やかな指導を通じて、確実な資格取得と就職実績の維持・向上へ繋げていくことを期待する。

学校評価・重点目標に対する評価

重点目標①：少子化を見据えた効果的な学生募集の展開と「選ばれる学校づくり」

- 取り組みの評価： 現代の高校生が抱く「経済的不安」や「将来のキャリア持続性」といったリアルな懸念を分析し、広報戦略に的確に反映させている。Instagram や TikTok 等の SNS 特性に合わせたショート動画（技術習得のビフォーアフター等）の拡充や、在校生のリアルな体験談による共感獲得への取り組みは非常に有効である。
- 提言： 各種 SNS から公式 LINE 個別相談、オープンキャンパス、最終出願に至るまでの導線最適化をさらに推し進め、1 回の参加で出願を決意できる個別相談の充実と、複数回参加で技術をステップアップできる「発展型プログラム」の質を高め、入学希望者の確実な獲得に繋げてほしい。

重点目標②：教職員の資質向上

- 取り組みの評価： 教員の経験年数の差（指導の温度差）を解消するため、半年間の新人教育プログラム（1 ヶ月目の資質教育から 6 ヶ月目の模擬授業まで）を体系化した点は非常に素晴らしい取り組みである。また、カスハラ（カスタマーハラスメント）防止指針の HP 掲載など、先生方のメンタル面への負担軽減の対策が講じられている点も評価できる。

- 提言：若い学生との意識のズレから生じる軽率な行動を未然に防ぐため、教員自身が学生の鏡となって見本を示し、清掃やエコ対策、規律指導における「問いかけの仕方や伝え方」の指導力を組織一丸となって強化されたい。

重点目標③：学生の資質向上

- 取り組みの評価：技術習得にとどまらず、現場で即戦力として信頼される高い倫理観を持った職業人の育成を目指し、「規律（コンプライアンス）」を最重要事項に据えている方針は適切である。近隣からのクレーム（たむろ、無断駐車等）という現実に対し、ルール軽視が現場での重大な信用失墜に直結することを全学生に自覚させる取り組みは不可欠である。
- 提言：グループワーク等を通じて学生自身に意見交換を行わせ、善悪の判断や自ら考える力を養う主体的な教育を徹底してほしい。また、技術習得スピードが異なる多様な学生に対し、個別の習熟度に応じた手厚いフォローアップや補習体制の強化を継続し、全資格の受験者全員合格と確実な就職実績の維持・向上へ結びつけていくことを期待する。

総括

令和８年度の石川県理容美容専門学校は、高い資格取得実績や就職率、健全な財務・組織運営を維持しており、全体として非常に高く評価できる。 今後は、学生の中途退学防止に向けた組織的な早期介入体制の確立や、地域社会・近隣住民との良好な関係を維持するためのコンプライアンス・マナー指導の徹底が重要な継続課題となる。学校、保護者、そして地域・業界が三位一体となり、学生が自己管理のもとで主体的に学び抜く力を身につけられるよう、厳格かつ温かみのある指導体制の構築を教職員一同で突き詰めていくことを強く期待する。 本委員会における評価と提言が、次年度の重点目標の確定およびさらなる学校運営の改善に有効に活用されることを望む。